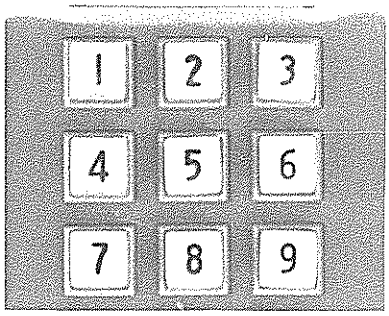
これはなんでしょう



◪しめきり　7月20日

◪あて先　〒783　南国市大埔甲二三〇一　南国市役所広報委員会　親子クイズ係

◪答えのハガキには必ず、住所、氏名、年齢、職業を書いてください。

◪賞品　正解者の中から抽選で五人に図書券を進呈

第206回当選者発表（敬称略）

（応募総数17通）

長尾聖仁（片山）、横田京子（物部）、栃本祥児（大埔）、香川喜美子（大埔）、岡林りさ（東崎）

◎第206回親子クイズの答えは時計でした。

答えについての思い出などもお待ちしています。

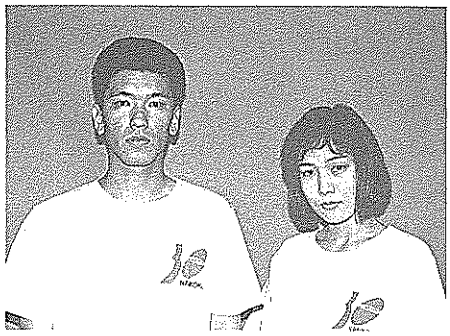
30周年記念 Tシャツ販売中

市制施行三十周年を記念してTシャツを販売しています。

ご希望の方は、三十周年記念事業実行委員会事務局（市役所企画課　☎㊸2111内線421）までご連絡ください。

◪価格　一千二百円

◪サイズ　男女兼用でM、L



―お母さんのシリーズ―

動物子育て論

家庭教育学級専任講師　田植　静代

アフリカのサバンナでチーターが三匹の子を生みました。

母親のチーターは獲物を取り子供を育てます。えさはトムソンガゼルで、群れのなかの一頭に目をつけたら、それだけをいちもくさんに追いかけます。後方から飛びかかり、つめをかけて引き倒すと、すぐ首のけい動脈をかみ切り、子供たちの所へ引きずっていくのです。

子供たちは一斉にえさに群がって食べます。

子供たちは、親の一つ一つの行動を見て育っていくのです。

獲物をねらう待機の仕方、一つの目標に向っての追いかけ方、獲物の処理の仕方、そして子供がある大きさに育つと、親は実際に小動物を追いかけさせて、えさ取りの練習までさせるのです。

親の行動には手抜きも人頼みもありません。一つ一つの行動すべてが、子供に継がれていきます。

子供が親と同じくらいの大きさに成長しました。親が子に与える最後のえさやりになりました。今までは一発で獲物をしとめていたのに、だんだんと老いていく母親チーターは二、三回もかかって、やっと獲物を取りました。それを引き倒し子供たちの所へ持っていくと、母親以上にりっぱに成長した子は、母からの最後のえさを食べ、それぞれ別れ別れに散っていきました。とうとう母親から独立したのです。

母親はこれから先、自分自身のためのえさを取り生きていくわけですが、最後にはそれもできぬようになって死んでしまうのです。自分が育てたからといって、子供にお返しは願いません。親は自分の全精力を出して、りっぱなチーターに育てあげたのです。

これが動物の子育てなのです。このことはチーターに限らず、他の動物の子育てにも見られます。

では人間社会ではどうでしょうか。

現在の社会ではたいへん物が豊かになり便利な世の中になりました。それにともない、子育ての仕方にもなんと手抜きや人頼みが多くなったことでしょう。

「あ、やっと一年生になりました。先生、うちの子ようしつけていませんので、どうかよろしく願います。」とあいさつをされる新一年生のお母さんがおられますが、そのような母親は子供が問題を起こしたりすると、それは全部人の故になります。

子供の言動の元は親自身にあることを動物の子育てを通してもう一度考え直してみましょう。

南国市教育委員会社会教育課では、第一子が新一年生を迎えるお母さんのために、中央家庭学級を行っています。そのお話の一部分を参加できないお母さんのために、六月一日号よりシリーズとして掲載しています。どうかよろしくお願いします。

【社会教育課】